

# 花の生涯

## 映画文学人生論

船橋聖一 (1904-76)

『花の生涯』 (1952-53) 「毎日新聞」

参考：NHK大河ドラマ『花の生涯』 (1963)

出演：井伊直弼 尾上松緑  
長野主膳 佐田啓二  
村山たか 淡島千景

「寅さんというのは、それは吉田寅次郎のことだろう」と直弼が云った。

徳川幕府の大老井伊直弼は日米修好通商条約に署名し、天皇の勅許を得ずに強行したことから勤王の志士による攘夷と倒幕の活動を激化させる。安政の大獄で志士たちを粛清したが、最後は桜田門外の変で暗殺されてしまった。

攘夷か開国か。結果的には、日本は開国したのだから、井伊直弼は開国の父として尊敬されてしかるべきところだが、そのわりに悪役のイメージが強い。黒船で密航しようとして、捕らえられた長州藩士吉田松陰を安政の大獄で死罪にしたことが祟ったのかもしれない

NHK大河ドラマではこれまでに約十回登場しているが、どちらかといえば悪玉で、善玉(?)の吉田松陰や徳川慶喜や勝海舟や西郷隆盛や坂本龍馬や篤姫の引き立て役になっている。

しかし、昭和三十八年に放映された第一回の大河ドラマ、船橋聖一原作の『花の生涯』では善玉の主役だ。井伊直弼を演じたのは尾上松緑、謀臣の長野主膳は佐田啓二、愛人の村山たかは淡島千景というなつかしい顔ぶれ。残念ながら昭和三十八年の放映では私はテレビを観ていないし、現在はDVDの完全版は出まわっていない。

原作によれば、日米和親条約が締結された嘉永七年に佐久間象山の門弟が密出国を計画しているという情報を直弼はすでに入手していた。



# 花の生涯

映画文学人生論

「門弟とは誰じゃ」

「誰ともわかりませぬ。たゞ、象山の妻が、寅さん寅さんと呼んでいるそうで・・・」

「寅さんというのは。それは吉田寅次郎のことだろう」と、直弼が云った。

「ホウ、ご存じでござるか」

「面識としてはないが、佐久間象山の門に吉田なる有能有為の秀才がいることは承知している」という吉田寅次郎こと松陰が有名な寅さんだった。葛飾柴又の寅さんではない。

この早い時期から直弼は松陰の存在を知っていて、しかも好意を抱いている。それなのに、安政の大獄で死罪に処したのはなぜか。

船橋聖一の原作によれば、松陰と越前の橋本左内は捕らわれて江戸へ監送されたが、兩人とも、幕府が直接にそれを希望したというより、藩の当局者が、自藩を擁護するために、勤王党たる旗幟の明かな二人を捕えてさし出し、以て自藩に二心なきを証明しようとした策となっている。

吉田寅次郎は、死罪の判決が下るや、顔色蒼白となり、口角より泡を吹いて。猛然と反抗したという。この描写は「身はたとひ武蔵の野辺に朽ちぬとも留め置かまし大和魂」という辞世から想像される松陰のイメージとは離れすぎている。

釜のふたそろりとおいて郭公 無根水